

映画
『遙かな町へ』

倉吉スタジオ

昭和の倉吉よみがえる

倉吉市を舞台にした実写映画『遙かな町へ』(錦織良成監督)の撮影が31日、同市の白壁土蔵群周辺で行われた。土の舗装の再現やボンネットバスが登場し、一帯は原作漫画の時代設定となる昭和30年代の雰囲気包まれた。

(井田慎一)

ボンネットバス、オート三輪も

この日は、1963(昭和30)年の倉吉にタイムスリップしたばかりの主人公が、戸惑いながら町を歩く場面や友人と語り合

午後からの本町通り(同市魚町)での撮影には、100人を超えるエキストラとともに、ボンネットバスやオート三輪など昭和を象徴する車両が投入され、活

オート三輪「ミゼット」のオーナー、岡山県倉敷市の西沢理昭さん(70)は愛車を運転して撮影に参加し、「乗るだけで緊張した」と



ボンネットバスが走る通りを歩き交うエキストラ
31日、倉吉市魚町



土の道路に改修された玉川沿いを歩き、撮影に臨む及川さん(左)
=31日、倉吉市新町1丁目